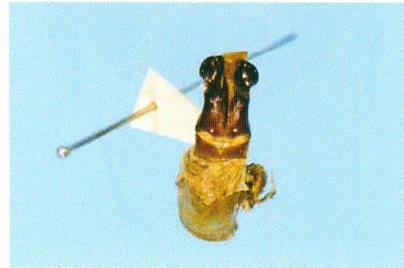
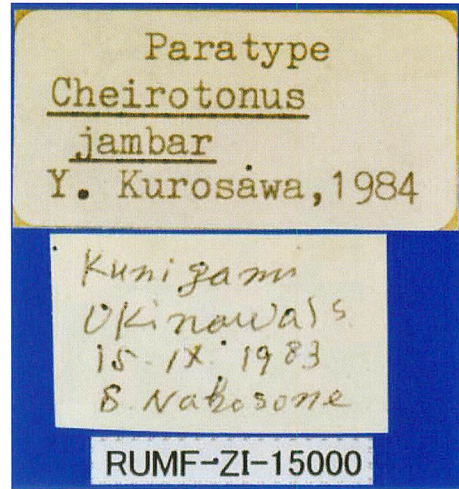
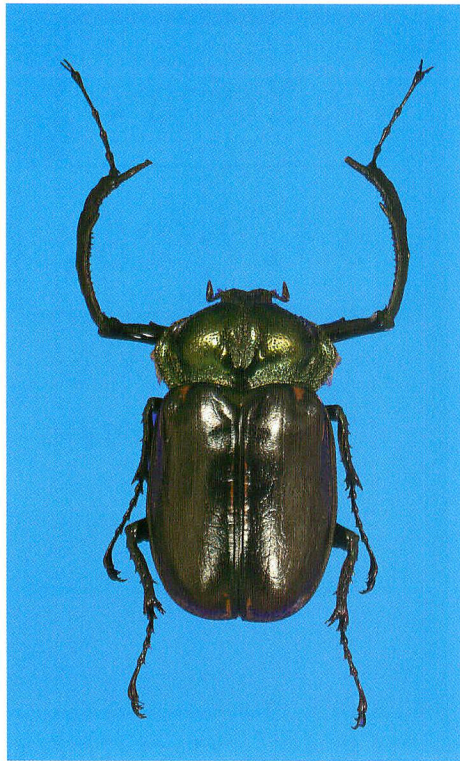


琉球大学学術リポジトリ

[和名] ヤンバルテナガコガネ [学名] Cheirotonus
jambar Y. Kurowsawa, 1984

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学資料館 (風樹館) 公開日: 2009-10-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 健志 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/12663 |

ヤンバルテナガコガネ

Cheirotonus jambar Y. Kurosawa, 1984

Paratype (RUMF-ZI-15000)

原記載 : Kurosawa, Y., 1984. Discovery of a new long-armed scarabaeid beetle (Coleoptera) on the Island of Okinawa. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, Sre. A, 10(2): 73-78.

タイプ標本データ

| ID | 標本種別 | 採集場所 | 採集日 | 採集者 | 性別 | 保存状態 |
|---------------|----------|------------------|------------|-------|----|------|
| RUMF-ZI-15000 | Paratype | 日本沖縄県沖縄島国頭村普久川ダム | 1983/09/15 | 仲宗根貞子 | ♂ | 乾燥 |

本パラタイプ標本は、野外で生きたまま成虫が発見された最初の個体である。沖縄島北部（通称、やんばる）に位置する普久川ダム管理棟近くの路上で、灯火に飛来した個体が地元住民によって採集された。日本最大の甲虫で、雄の体長は62 mm に達し、前脛節は著しく伸長し、先端には内側に伸びる長い突起をそなえる。写真のような大型の個体では、この突起の先端が鉤状となる。本種は、地理的に最も近い台湾に分布するタイワンテナガコガネ (*Cheirotonus formosanus*) よりも、中国大陸に分布するヤンソンテナガコガネ (*Cheirotonus jansonii*) に近縁であることが分子系統解析によって明らかになっており、琉球列島の生物地理を研究する上でも重要な昆虫である。幼虫は、イタジイ、オキナワウラジロガシ、イスノキなどに形成された樹洞に生息し、木質部が腐朽し土のようになった腐植物を食べてゆっくりと成長し羽化までに3~4年を要する。生息地の森林開発や密猟などによって絶滅が危惧されており、国指定天然記念物および国内希少野生動植物種に指定されている。

(佐々木 健志)